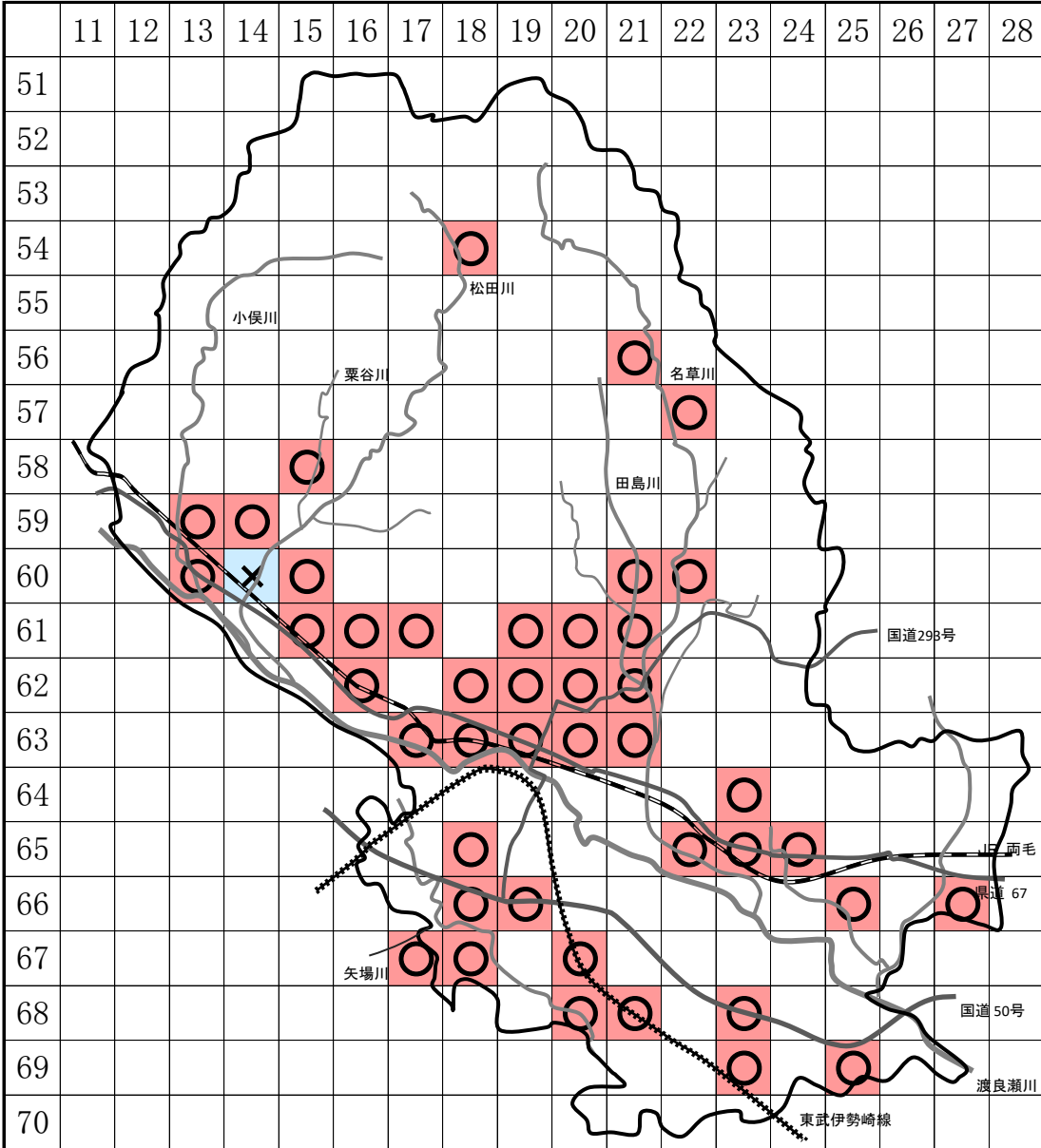


<h1 style="font-size: 2em;">アゲハ</h1> <p style="font-size: 1.2em;">ナミアゲハ</p>	確認数： 43 メッシュ
	報告数： 44 メッシュ
	2022年度 45/45    2021年度 53/53

※過年度 確認数/報告数



ナミアゲハともいわれているアゲハで、春型と夏型がある。春型は小さく夏型は大きい。幼虫はサンショウ・カラタチ・ミカンなどの木で成長する。このチョウによく似ているものにキアゲハがいるが、これは濃い黄色をしている。どちらもごくふうに見られるチョウである。

かんさつてきき  
**観察適期**  
 がつ            がつ  
**3月～10月**

- 生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

## 調査結果

これまで同様市内各地で確認されました。山間部では植生遷移の初期段階（先駆植物）に出現する主要な食草のひとつであるカラスザンショウと好んで蜜を吸いに訪れるクサギが市内山間部を中心に多く見られることもあり、毎年安定した個体数を維持しているようです。

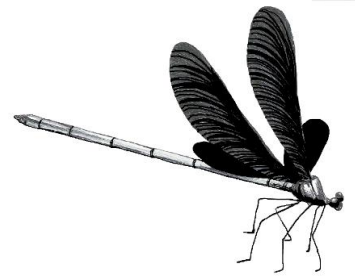
# ハグロトンボ

確認数： 47 メッシュ

報告数： 53 メッシュ

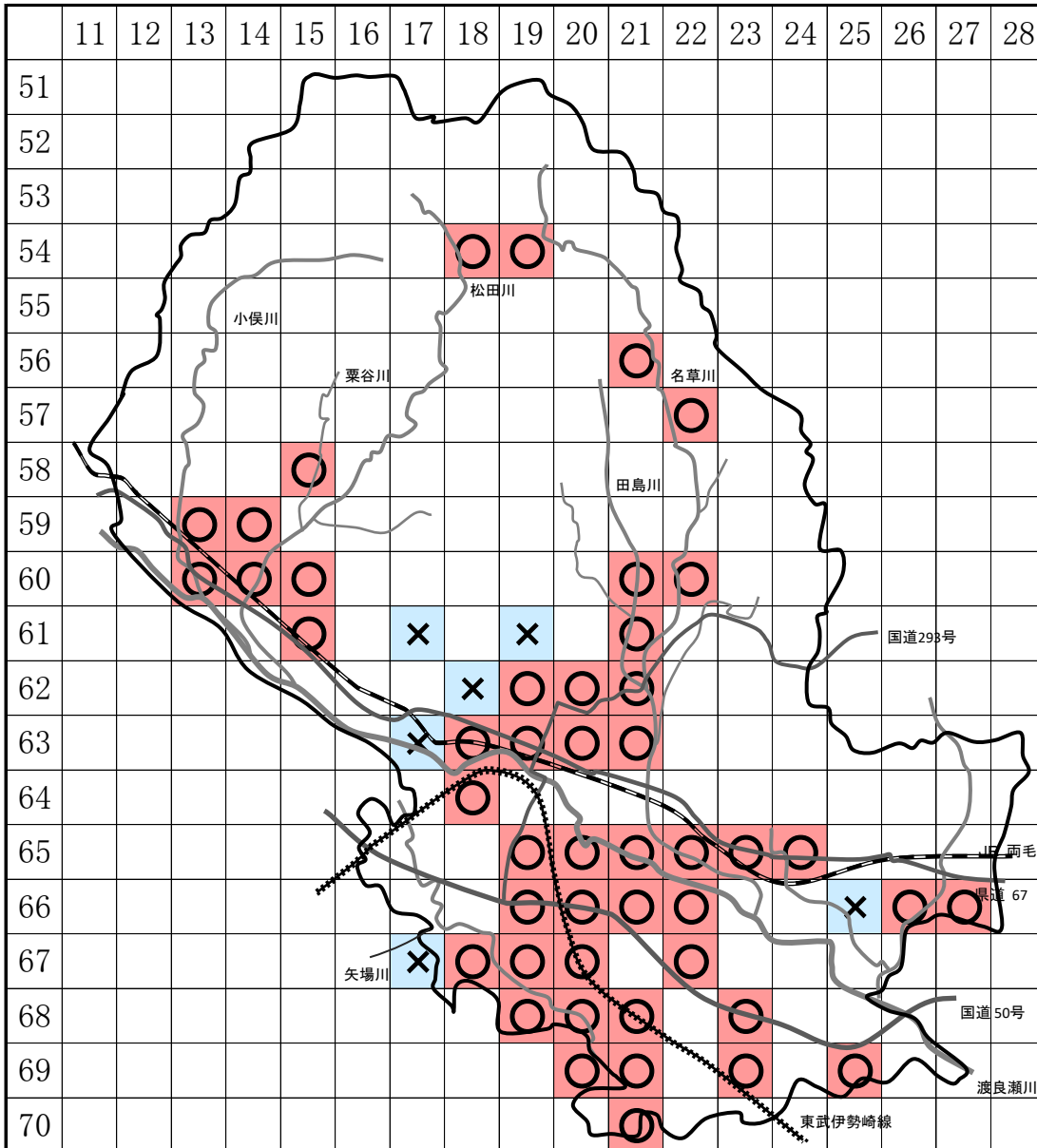
2022年度 49/50 2021年度 43/47

※過年度 確認数/報告数



おおきさはやく5.4～6.8cm。細長く黒っぽ  
い翅を持ったヒラヒラ  
と飛ぶトンボ。多くは  
河川に近い場所に生息  
しており、川の近くに  
ある草原や林などでも  
みることができる。

かんさつてきき  
**観察適期**  
がつ 5月～10月



・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示

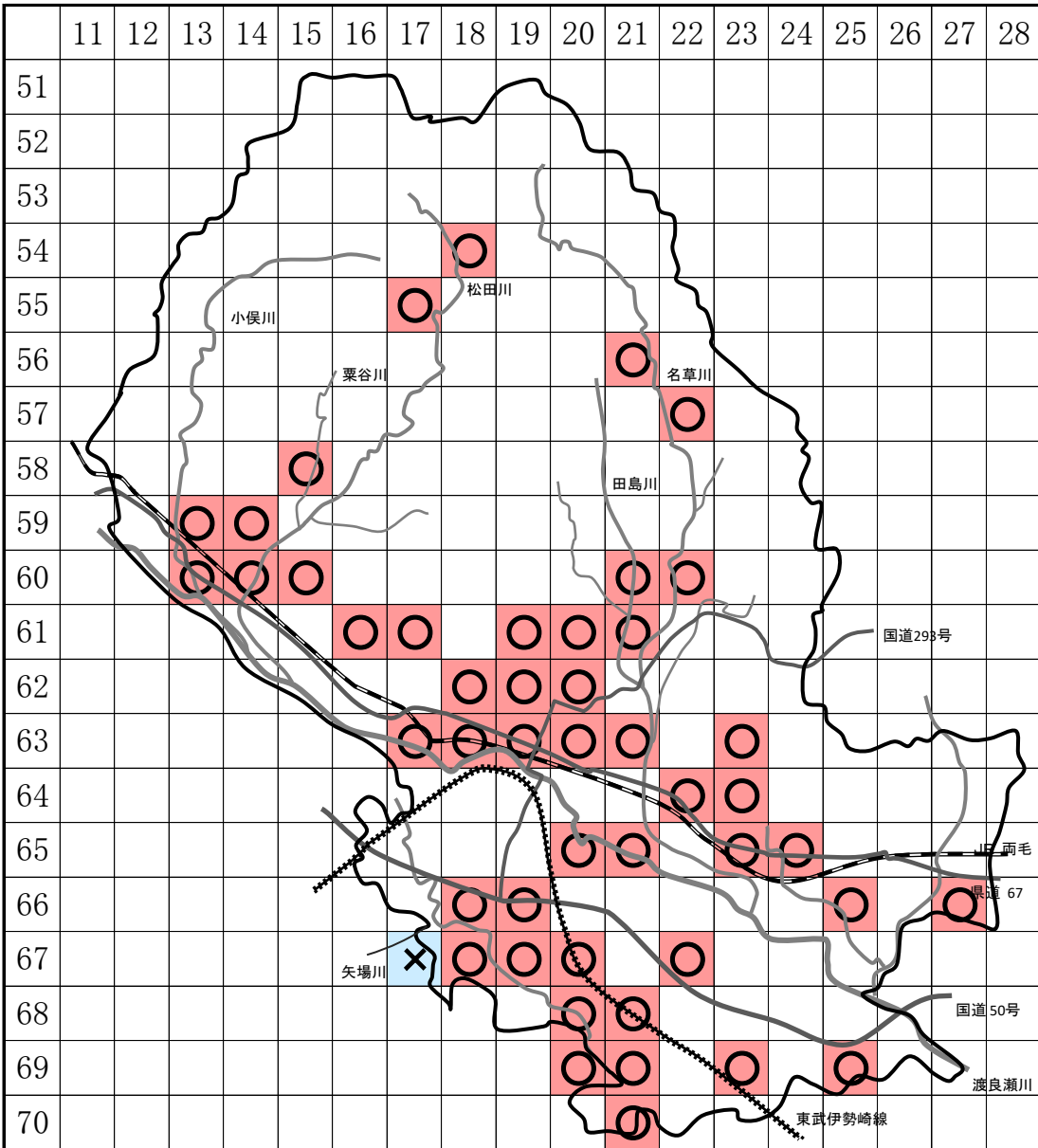
・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

## 調査結果

これまで同様足利市では広い範囲に生息していることがわかりました。特に河南地区にも引き続きいることがわかりました。しかもうれしいことにたくさんの報告がありました。主に河川の下流域に住み、やや汚染された水域にもいるようです。2023年現在、青森県・東京都・神奈川県では絶滅危惧種となっています。黒いとんぼで動作が緩慢で見つけ易く、水質の変化にも敏感に反応することから環境指標として適した昆虫であると言えます。

アキアカネ	確認数： 47 メッシュ
	報告数： 48 メッシュ
	2022年度 46/47 2021年度 43/43

※過年度 確認数/報告数



初夏に羽化した成虫は山へと移動し、秋に平地に降りてくる。移動をするトンボとしてよく知られる。何百匹のトンボが飛び交い、電線に止まっているアキアカネの行列を見たのははや過去のことになってしまった。数は1000分の1に減少したと言われている。

観察適期  
7月～10月

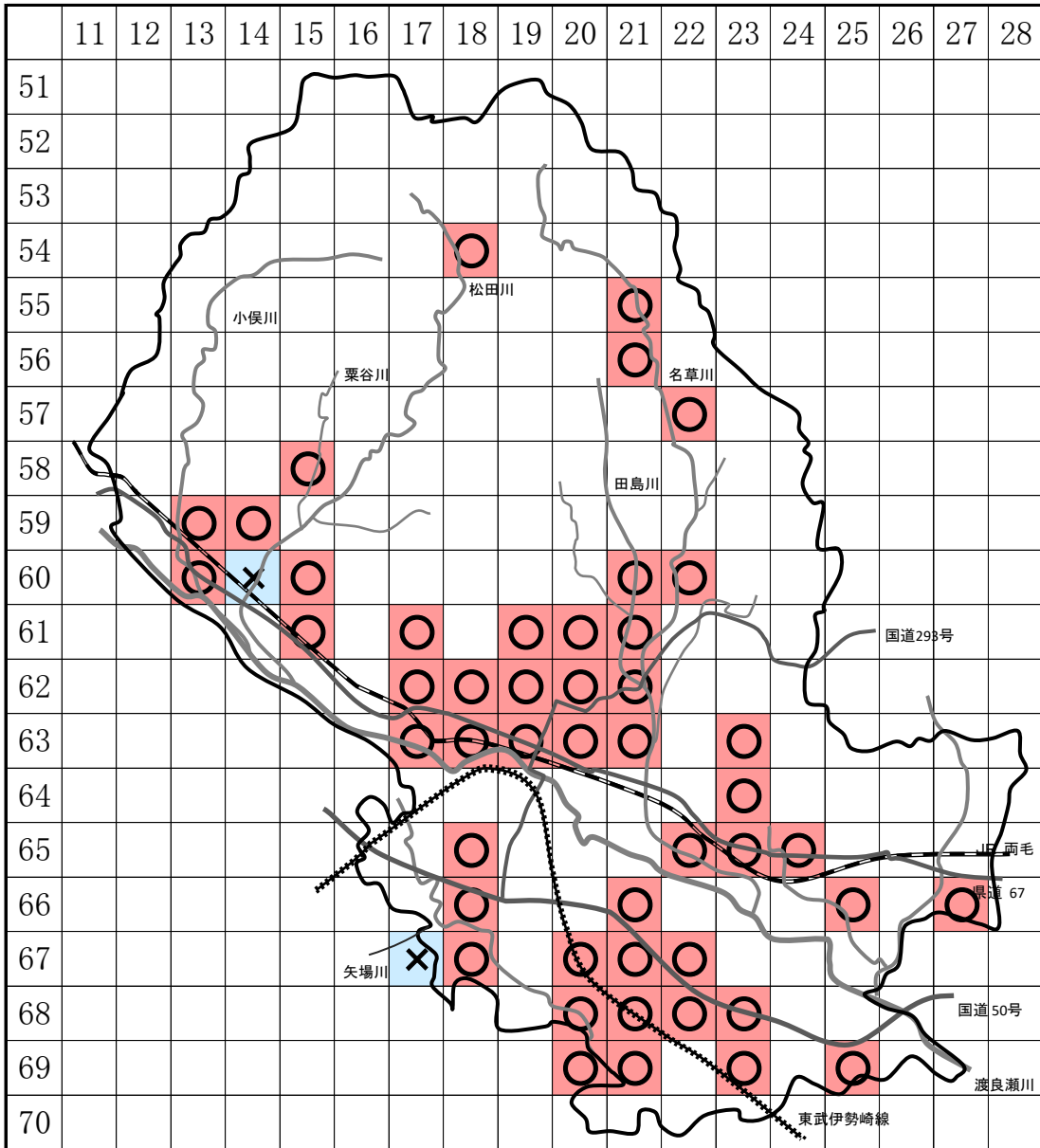
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

### 調査結果

昨年同様市内各地で確認されましたが、様々な理由により確実に減少していることは間違いありません。中でも減少に追い打ちをかけたのが1990年代後半からイネ苗といっしょに水田に持ち込まれた農薬の箱処理剤とみられています。それでも足利市に生息する数種のアカトンボのなかで最も多く見られるのがアキアカネです。2023年現在、鹿児島県・宮崎県・長崎県・山口県・香川県・岡山県・兵庫県・大阪府・三重県・富山県の10府県で絶滅危惧種となっています。

アブラゼミ	確認数： 48 メッシュ
	報告数： 50 メッシュ
	2022年度 47/47    2021年度 49/50

※過年度 確認数/報告数



セミの中<sup>なか</sup>では、最<sup>も</sup>もふつうの種<sup>しゅるい</sup>類<sup>るい</sup>である。からだいろくろく、はねちやいろであり、はらしろいこな粉<sup>こな</sup>のようなものがついてる。

7月<sup>がつ</sup>から8月<sup>がつ</sup>にかけておおはっせい多く発生し、ギーギーと大きな音<sup>おと</sup>を出す。ヌケガラという<sup>おと</sup>と、このセミのものをみかけることが多い。

かんさつてきき  
**観察適期**  
7月<sup>がつ</sup>～8月<sup>がつ</sup>

- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

### 調査結果

これまで同様市内各地で確認されました。足利市では最<sup>も</sup>も数<sup>かず</sup>が多いセミで、発生場所も広<sup>おほ</sup>い範囲<sup>はんい</sup>にわたっています。特にちょっとした樹林地<sup>じゆりんち</sup>でも見<sup>み</sup>られ、都会<sup>とがい</sup>でも最<sup>も</sup>も多<sup>おほ</sup>いセミです。

足利市の分布状況は山間部<sup>さんかんぶ</sup>では少<sup>すく</sup>ないようで、このことは他のセミには好適<sup>こうてき</sup>でもアブラゼミにとっては好適<sup>こうてき</sup>な環境<sup>かんきやう</sup>ではないことを意味<sup>いみ</sup>しているようです。

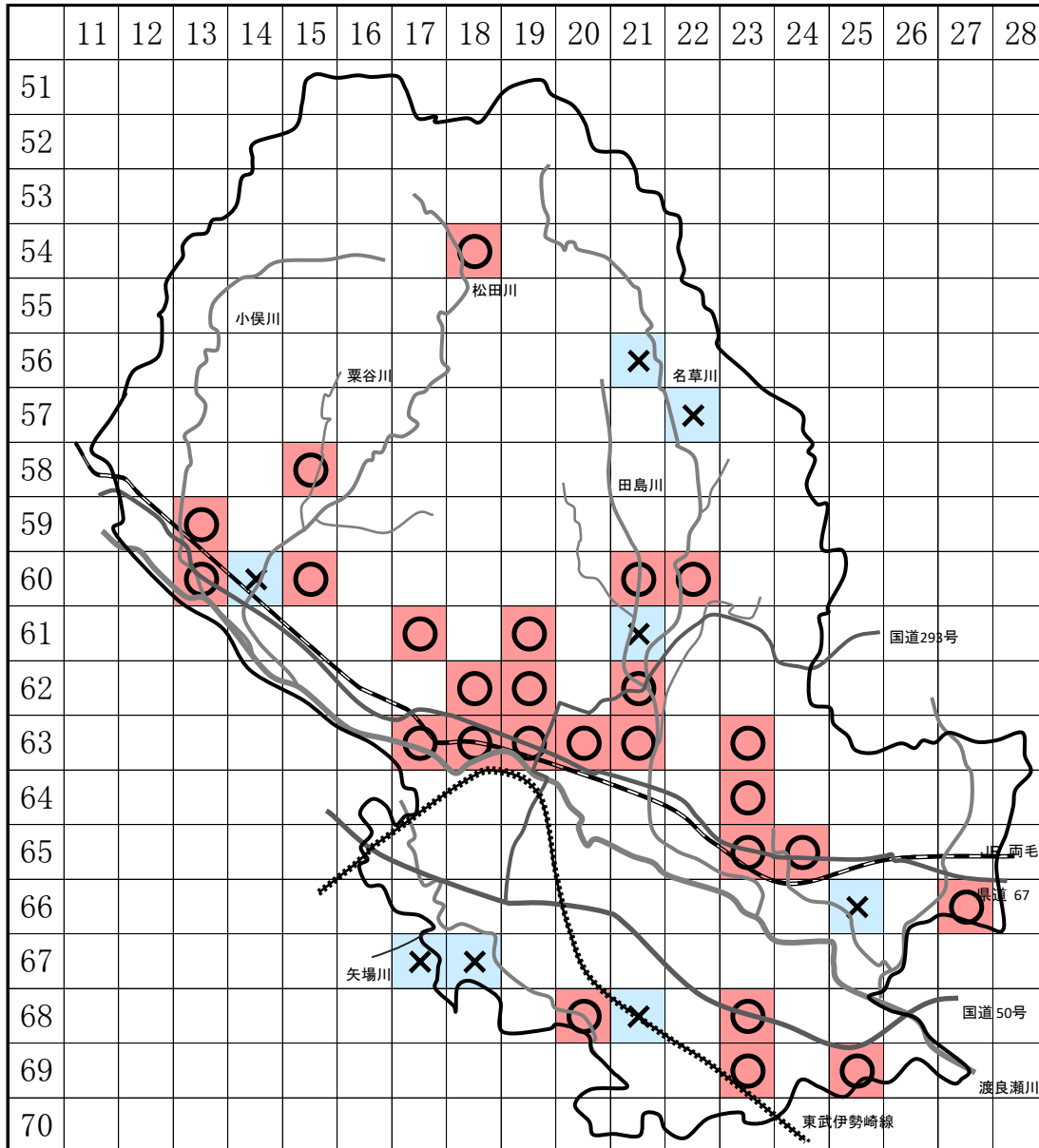
# ヒグラシ

確認数： 26 メッシュ

報告数： 34 メッシュ

2022年度 31/37 2021年度 32/40

※過年度 確認数/報告数



かつしやくじ くろいろ みどりいろ  
 褐色地に黒色と緑色  
 はんもん  
 の斑紋があるセミ。山  
 ち うすぐら はやし おお  
 地の薄暗い林に多い  
 が、じゆうたくち こうえん  
 が、住宅地の公園にも  
 いる。  
 おもに ゆうがた そうちよう  
 おもに夕方と早朝に  
 「カナカナカナカ  
 ナ・・・」と哀調のあ  
 こえ な やかん  
 る声で鳴く。夜間には  
 ともしび と  
 灯火にも飛んでくる。

かんさつてきき  
**観察適期**  
 がつ がつ  
 6月～9月

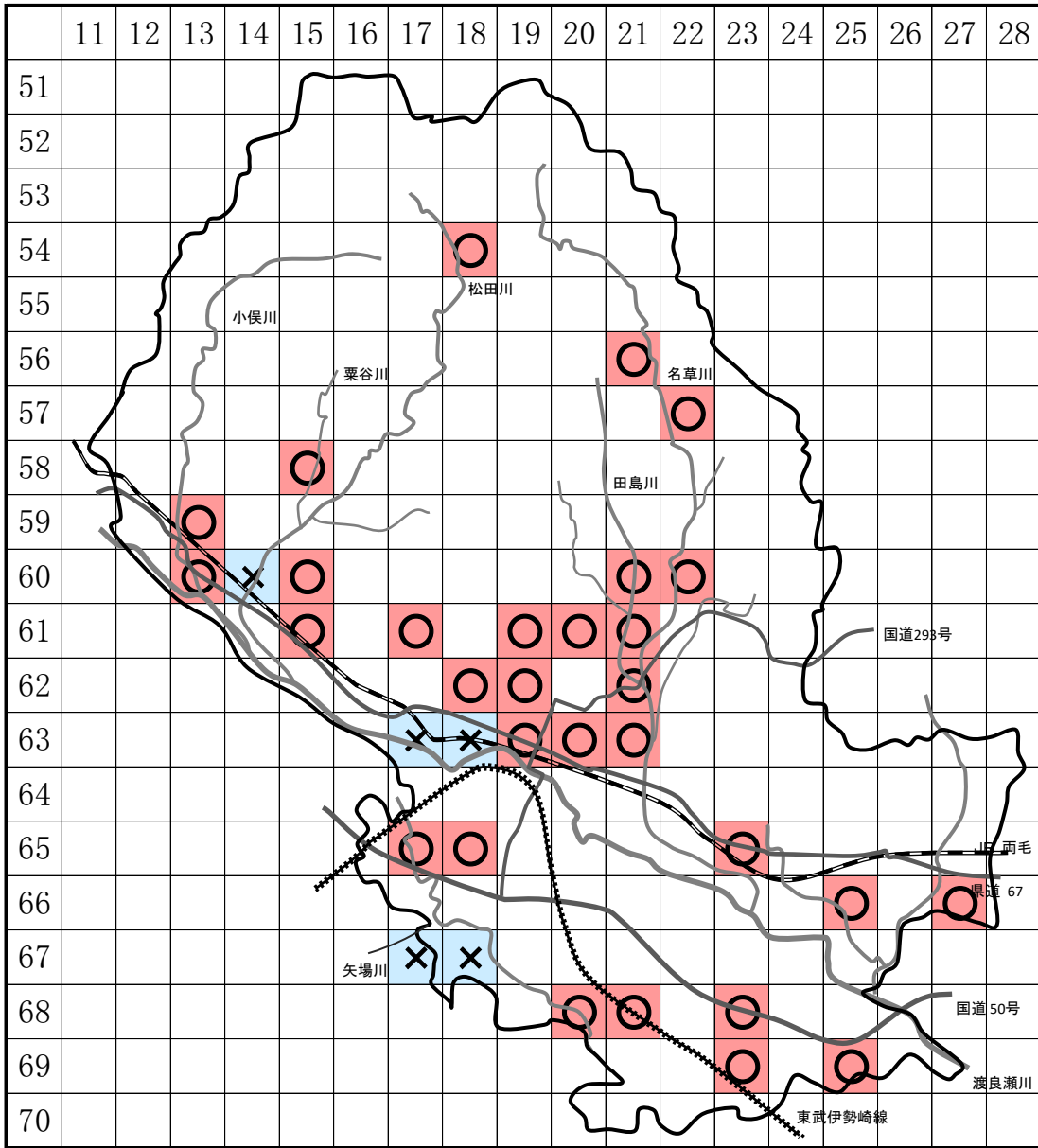
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

## 調査結果

さくねん  
 昨年よりやや少ないながら足利市の広い範囲に生息していることが分かりました。都会ではヒグ  
 ラシのこのかんきようがなくなり、なごえを聞けなくなった場所もあるようです。昨年同様喜ばしいこと  
 かなんちいき けつこうせいそく  
 に河南地域でも結構棲息していることが分かりました。ヒグラシの好むまとまった樹林が維持され  
 ていることだと思えます。2023年現在、北海道と東京都で絶滅危惧種となっています。

<h1>オオカマキリ</h1>	確認数： 30 メッシュ
	報告数： 35 メッシュ
	2022年度 38/41 2021年度 39/41

※過年度 確認数/報告数



体長は8cmほどあり、カマキリの中で一番大きい。色は緑色で、カマのような前足で生きている虫をとらえて食べる。

**【見分け方】**

<p><b>オオカマキリ</b> たまご (卵塊)</p> <p>丸みがある</p> <p><b>うしろ翅</b></p> <p>黒い部分が多い</p> <p><b>カマの付け根</b></p> <p>黄色</p>	<p><b>チョウセンカマキリ</b></p> <p>ほそなが細長い</p> <p>透明</p> <p><b>カマの付け根</b></p> <p>朱色</p>
---	---

観察適期 8月～10月

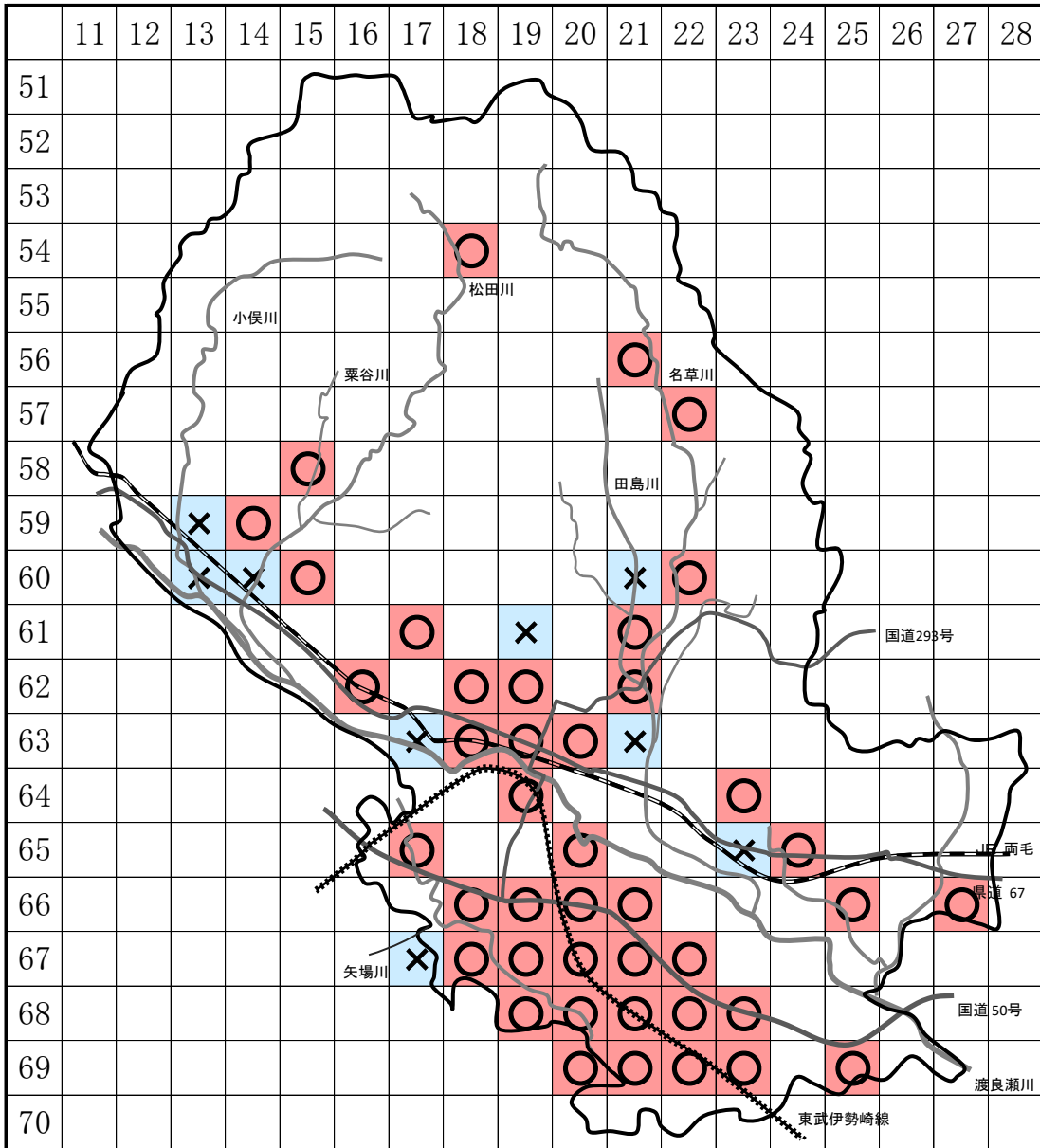
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

## 調査結果

昨年よりは約10メッシュ少ない報告がありました。この原因が何なのかわかりません。しかしこれまで同様市内各地に広く生息していることが確認されました。個体数が減っている傾向であることから数は減っているものと思われます。大きなカマキリは「オオカマキリ」と「チョウセンカマキリ」の2種いて、慣れないと区別は難しいのですが、区別点に分かれば意外と簡単に見分けられます。足利市で見られるのはオオカマキリが殆どです。チョウセンカマキリは開けた草地を好むようです。

エンマコオロギ	確認数： 42 メッシュ
	報告数： 51 メッシュ
	2022年度 41/43 2021年度 34/40

※過年度 確認数/報告数



からだは<sup>ちやかつしよく</sup>茶褐色で2  
 ~3cmの<sup>おお</sup>大きさであ  
 る。4月ごろ<sup>がつ</sup>出で<sup>で</sup>数回  
<sup>だっぴ</sup>脱皮をくりかえして8  
 月ごろ<sup>がつ</sup>成虫になる。  
 ほかにミツカドコオ  
 ロギ・オカメコオロギ  
 などがいる。

かんさつてきき  
**観察適期**  
 がつ がつ  
 8月~10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

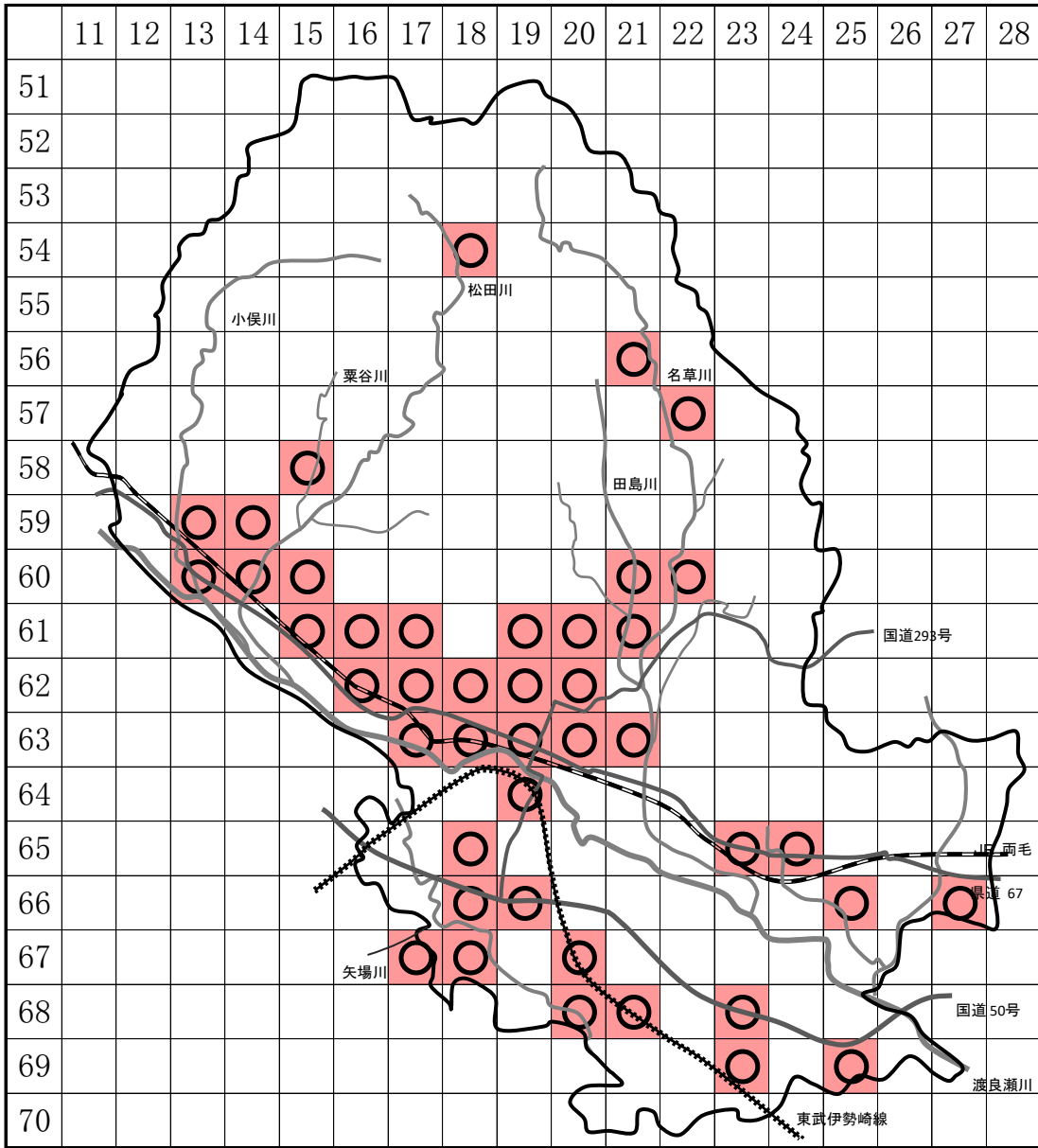
### 調査結果

これまで<sup>どうようしない</sup>同様市内各地に<sup>かくち</sup>広く<sup>ひろ</sup>生息していることが<sup>せいそく</sup>確認されました。<sup>かくにん</sup>原っぱや<sup>はら</sup>畑、<sup>はたけ</sup>道端などに<sup>みちばた</sup>広く<sup>ひろ</sup>生息し、<sup>あしかがし</sup>足利市では<sup>もつと</sup>最も<sup>ふつう</sup>普通に見られる<sup>み</sup>コオロギのひとつです。<sup>あんてい</sup>安定した<sup>こたいすう</sup>個体数を<sup>いじ</sup>維持しているものと思われま

ナナホシテントウ

確認数： 43 メッシュ  
 報告数： 43 メッシュ  
 2022年度 51/51 2021年度 47/47

※過年度 確認数/報告数



おお  
 大きさは1cmぐらい  
 で、あかいいろなか  
 のなかで、赤い色の中に7つの  
 はんもん 斑紋がある。ようちゆう せいぢゆう  
 幼虫・成虫  
 は、アブラムシをた  
 べる。ほかにナミテント  
 ウ・アカボシテントウな  
 おお 多くの種類がある。  
 つまんだりすると、から  
 だからきいろいえきたいだ  
 出黄色い液体を出  
 し、このえきには臭みと苦  
 がみがあり、とりなどのほしよく  
 捕食者に対してはこうか  
 効果がある。あかに  
 黒い点を持つあかじくろ  
 てんも目立つ模様は、ほしよく  
 捕食者に対するけいこくしよく  
 警告色になっている。  
 かんさつてきき  
 観察適期  
 3がつ～11がつ

- 生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

調査結果

さくねん すく  
 昨年より少ないながらあしがし ひろ  
 足利市の広い範囲にせいそく  
 生息していることがわかりました。ひあ  
 日当たりのよい草  
 地、はたち しゅうへん  
 の周辺、庭などいろいろなところ  
 でよく見られます。ねん  
 年に2回かいほっせい  
 発生してせいぢゆう  
 成虫でふゆ  
 冬を越し、なつ  
 夏にはかみん  
 夏眠をします。しよとう  
 初冬でもあたひ  
 暖かい日はよく見ることが  
 できます。まいとしあんてい  
 毎年安定したこたいすう  
 個体数を維持し  
 ているものおも  
 と思われる。